

## 難波京宮殿の仮宮味経宮

大和政権の全国支配が進み、天皇を中心とした国家体制が整備されていきます。聖徳太子による「十七条憲法」(604年)小野妹子を「遣隋使」として派遣(607年)「大化改新」(645年)「大宝律令」(701年)「平城京」へ遷都(710年)「古事記」編纂(712年)「日本書紀」編纂(720年)「国分寺・国分尼寺」建立の詔勅(741年)などと続きます。



左上 コンピュータグラフィックで再現された後期難波宮大極殿  
 右上 後期難波宮大極殿(澤村仁氏基本設計をもとに復元)



いずれも大阪歴史博物館・2001年  
 『常設展示案内』より

### 都を飛鳥から難波へ

大和政権が大和(奈良)の飛鳥地方に造営した都は、大化元年(645年)難波(大阪)へ移されることが決まります。日本各地や外国との交流の要所として、海に開かれた港が重要になり、前期難波宮(難波長柄豊碓宮・ナニワナガラトヨサキノミヤ)の建設が着手されることとなります。宮殿は7年後の白雉3年(652年)に「言葉にいいつくせないほどすばらしい」ものとして完成しますが、完成までの間、いくつかの仮宮が利用されます。また8世紀前半の聖武天皇のころ同地に後期難波宮が造営されます。近年の発掘調査ではこの2次期に重なった宮殿が見つかっています。

### 離宮(仮宮)味経宮

仮宮のひとつに味経宮(アジフノミヤ)があり、摂津市別府地区の旧小字「宮の内」周辺とする淀川北岸説と天王寺区小橋町周辺とする上町台地説とがあります。

この味経宮は立派なもので、日本書紀によると

天皇が、ここに2千人以上のお坊さんや尼さんを集めてお経を読ませました。その時、庭に2千700余りの灯火をともしたと書かれています。年始の儀式もここで行われています。

### 味経宮から味府神社へ

味経宮のあったといわれる場所に、後に鰯生(アジフ)神社というのが建てられたと伝えられています。さらに、そこが延暦4年(785年)の淀川と安威川をつなぐ大工事(後に詳述)にかかったため、分割移転されたといわれています。それが現在の別府の味府神社、一津屋の味生神社、新在家の味生神社だといわれています。

### 地名「味生」の由来

三宅・鳥飼・味舌などと並んで、味生という地名も旧村名であり、いずれも古い由来を尋ねることができます。味生の場合は、前記「味経宮」があったと言われていたことや、続日本紀に785年(平安遷都直前)桓武天皇が淀川と三国川(神崎

川)を結ぶために「鯨生野(アジフノ)」を開削させたという記録が残っていること、さらに江口(現在、淀川が神崎川に流入する所)の辺りには「味原牧」と呼ばれる牧場が広がっていたといわれていることなど、往古よりこのあたりが「あじふ」と呼ばれてきたらしいことを挙げるができます。

## 大化の改新と条里制

条里制とは、農地開拓のために行われた耕地の地割制度のことです。東西南北に六町(一町は約109m)幅に区画されていました。一町方格はさらに36に分けられ、坪と呼ばれました。摂津市域の北部には、条里制を踏襲したまちなみが残っています。また千里丘東四丁目辺りは以前「坪井村」と呼ばれており、条里制の名残だろうと考えられています。

現在、条里制の起源については、大化の改新がはじまり大宝律令・養老律令の施行の時期、すなわち中央集権的な大和朝廷が確立した時期が有力な説となっています。

摂津市を含む三嶋地方の条里は、正東西・南北に展開する嶋上郡・嶋下郡の条里を主体としながら、摂津市域・吹田市域においては約33度北西へ方位が転換する地域として知られています。またちょうどこの方位が転換しているところに境川が流れています。この境川に沿って「坪境石」・「けんか石」とか呼ばれる6個の石が並んで発見されています。昭和58年に大阪府教育委員会に



旧大字坪井付近の航空写真

が境川。『摂津市史』より加筆

よりこれらの石の発掘調査が実施されました。調査の結果、坪境石が現在の状態に置かれたのは近世から近代のころと判明しました。しかし、地あげや土地改良の度、設置しなおされた可能性があり、石自体は古いものである可能性を残すと報告されています。(大阪府文化財調査速報第38号)

## 行基と常楽寺・金剛院

6世紀ごろ日本に伝えられた仏教は、やがて天皇を中心とした中央集権国家建設の精神的支柱としての役割を持ち、各地に多くの寺院が国家事として建てられていきます。

一方、民衆救済のための布教活動をする行基のような僧も活躍します。行基の足跡は各地に伝えられていますが、摂津市域では「常楽寺」(千里丘東一丁目)と「金剛院」(千里丘三丁目)が寺伝によると行基の開基として伝えられています。

常楽寺は大変立派なお寺だったようですが、明治6年に廃寺となりました。



金剛院不動明王立像

(大阪府指定有形文化財)

平成11年3月に全体的な損傷や足の部分について、修復作業が行われました

## 地名「味舌」の由来

金剛院は、行基が創建の時、自ら薬師如来の像を刻んで本尊とし、「放光山味舌寺」と名付けたと伝えられています。味舌の地名はこれに由来されたという説もあります。

金剛院の護摩堂の本尊である不動明王立像は寄木造りの秀作で平安時代後期の作品とされています。

また、良いお米が獲れるという意味の「美田・ウマシタ」が転化して「ました」となり、それが「味舌」と表記されたという説もあります。

## 摂津市と摂津国

古代から江戸時代まで、現在の摂津市を含む広大な地域は「摂津国・セツノクニ」と呼ばれていました。摂津市は由緒あるこの国の名前をもらったものです。

摂津国は、初めのうちは「津国・ツノクニ」とも呼ばれていました。「津」とは港のことです。大和政権の全国支配が進むにつれて、大阪湾沿岸の港は全国の物資や人の集散地として重要になってきました。中でも難波津という港は、外国使節を迎えたり、外国へ使節を派遣したりする港として特に重要視されるようになってきました。

「津国」と呼ばれたのは、こうした港を含む地域であったからです。

こうしたことから、古代には、各国の地方長官として「国司」が置かれるのが普通なのに「摂津職・セツシキ」という特別の役職が置かれ、地方長官としての仕事だけでなく、港や船舶の管理と運営にあたりました。また、国名も「摂津国」と呼ばれるようになりました。

摂津市のように古い国名を市や町の名前としている自治体はたくさんあります。加賀市・越前町・和泉市・出雲市等々です。これら 36 の市や町が、摂津市の呼びかけで「全国伝統地名（旧国名）市町村連絡会議」を結成しています。

1 青森県むつ市	2 秋田県羽後町	3 福島県いわき市	4 福島県岩代町	5 千葉県下総町
6 長野県信濃町	7 石川県加賀市	8 福井県越前町	9 岐阜県美濃市	10 三重県志摩町
11 三重県伊勢市	12 三重県伊賀町	13 滋賀県近江町	14 京都府丹後町	15 京都府丹波町
16 京都府山城町	17 大阪府摂津市	18 大阪府和泉市	19 兵庫県淡路町	20 兵庫県播磨町
21 岡山県備前市	22 岡山県備中町	23 岡山県美作町	24 島根県出雲市	25 島根県石見町
26 山口県長門市	27 愛媛県伊予市	28 徳島県阿波町	29 高知県土佐町	30 高知県土佐市
31 福岡県筑後市	32 福岡県豊前市	33 佐賀県肥前町	34 宮崎県日向市	35 鹿児島県大隈町
36 鹿児島県薩摩町	全国伝統地名（旧国名）市町村連絡会議参加市町一覧			

